

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	*	*	*
	○	一般小売店 [酒]（経営者）	それ以外	・当地では2月15日まで酒類を提供する市内の飲食店舗への休業要請が出されたことで、ほぼ全ての取引先が休業し、売上が平常時の10%まで落ち込んだが、16日以降は回復の兆しが見られる。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数の減少に伴い、来街者数、来客数が増加傾向にある。このままの状態が続けば、景気も少しずつ回復することになる。
	○	百貨店（役員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が幾分落ち着いていることから、景気はやや良くなっている。ただし、この先の景気は不透明である。
	○	百貨店（営業販売担当）	お客様の様子	・平均的な来客数はまだ厳しい状況が続いているが、イベント時の集客に回復傾向が見られる。また、これまで苦戦していた婦人服にも回復の兆しが見られる。
	○	スーパー（店長）	お客様の様子	・前年は1月末以降、マスクなどの衛生用品が異常な売れ方となった一方で、全体的な来客数は例年よりも減少した。特に週末の来客数が大幅に減り、ファッション衣料などの不要不急な商材は売上が例年の70～80%まで落ち込んだ。今年2月はその状態から一巡したことで、衣食住のいずれの部門も前年を上回る実績となっており、過去3か月の状況と比較すればやや上向いている。ただ、一昨年の水準をいまだに下回るなど、厳しい状況は変わらない。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・6～20時の時間帯において来客数が回復してきている。
	○	衣料品専門店（店長）	それ以外	・前年は入社式などが相次いで中止になり、スーツ関連の販売量が過去最低となったが、今年は若干の回復がみられ、一昨年の85%まで持ち直している。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・車両販売の状況は3か月前と余り変わらないが、車検を始めとした車両整備が繁忙期を迎えて好調に推移している。
	○	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・営業自粛の影響で売上が伸びず、前年比40%台と悪かったが、昼夜共に特定の日の客入りが良かった。夜は底ばいで推移し、昼は上向き傾向になってきている。出張時に数回鉄道を利用したところ、1月は1車両当たり5～6人の利用であったが、2月は2名掛け席の全てで1名以上が利用しており、経済活動が回復している様子もうかがえる。ただ、休業中のアルバイト従業員からは、新規開業店以外、求人が増えていないと聞いた。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・冬の観光シーズンを迎えて、個人観光客がやや増えてきている。ただ、首都圏や関西圏などでの緊急事態宣言が続いていることから、団体客は引き続きほとんどみられない。一方、航空路線は既存各社の減便が継続するなか、LCCの新規路線が就航しており、今後のビジネス需要及び観光需要の回復への期待が高まっている。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・当地における新型コロナウイルスの感染動向について、いまだに感染者は出ているものの、一時期のようなクラスターの発生が減ってきている。人出はそれほど増えていないが、昼間の利用は若干改善の兆しが見られる。
	○	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・12月頃と比べると、大型スーパーや郊外店での出張販売イベントへの人出が増加しており、販売量にも反映されるようになってきている。このまま新型コロナウイルスの感染者数が減少していけば、外出自粛の動きも緩和され、状況が好転すると期待できる。
○	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況について、終息する兆しが見られるようになってきていることに加えて、米国及び日本の株式市場が活況を呈していることから、消費のムードが上向いている。	
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が出されたことで来街者がますます減少しており、商店街は閑散としている。	

<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	来客数の動き	・依然として来街者が減少している状態が続いている。区域内の駐車場では60～70%の空きがみられる日が多く、乗合バスの停留場も待っている人が少ない状態が続いている。また、夜型飲食店は来客数の減少に歯止めが掛からない状況であり、なかには例月の3割程度という店舗もみられる。
<input type="checkbox"/>	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・当店は観光地にあり、観光客の利用が100%近くを占めている。35人の社員を抱えているが、今は1日の売上が1～2万円と大変な状態にある。売上は新型コロナウイルスの影響がなかった2年前と比較して10.1%にとどまる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響が引き続きみられるなど、景気は好転していない。新型コロナウイルスの影響が一巡したことで、前年比では回復基調にみえるが、実態は変わっていない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍のなか、まとめ買いによる買上点数の増加がみられる一方で、来客数が伸び悩み傾向が続いている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（役員）	来客数の動き	・売上を前年比でみると、ここ数か月、余り変化はなく、やや良い状態で推移している。来客数は減少しているものの、客単価は引き続き2けたの上昇幅となっており、新型コロナウイルス禍のなかで客が買物回数を減らしている状況がうかがえる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（役員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響に加えて、今年は雪が多いこともあり、客がお買い得なセール時にまとめ買いする傾向がますます強まっている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響が継続しており、全体的な傾向に変化がみられない。来客数の減少傾向も続いているが、客単価の上昇により、店内販売は前年並みの数字を確保できている。一方、外販については飲食店からの発注が減少したままであることから、落ち込みが続いている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・飲食店関係の客の動きが鈍い一方で、工事関係の客はまますの動きがみられるなど、客による違いが大きく、どちらとも言えない状況にある。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は上昇しているが、来客数の減少に変化がみられず、増加に転じる気配もないため、景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・春の増販期を迎えるなか、受注量が見込みほど伸びていない。登録台数は前年と比べて増加しているが、半導体不足の問題や福島県沖を震源とする地震などによって、メーカーの供給体制に遅れが生じていることも影響している。この時期に受注量が伸びてこない、この先がきつくなる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍のなか、車の購入について様子見している客が多く、客の購入意欲に変化がみられない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・売れている営業マンも売れていない営業マンもいるが、全体的に販売量が伸びていないことから、やや厳しい状況にある。今は新型コロナウイルスの影響もあって、客の動きが鈍く、来客数が伸びてこない状況にある。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・外食など、外出する機会が増えてきていることから、少しずつではあるが、景気が回復傾向にある。
<input type="checkbox"/>	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・客の購買動向や会話の内容に変化はみられない。必需品以外の商材を買う客も少ない。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・街中の飲食店や隣接する自治体でクラスターが発生した影響で、特に夜間の状況がひどい。歓迎会やお別れ会なども行われないとみているため、景気が良くなることは見込めない。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・インバウンドや国内団体観光客、イベント関連での宿泊予約がほとんどない。一方、若干ではあるが、医療関係者の長期滞在、Webを経由した個人ビジネス客の利用がみられる。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・前年末以降、景気が好転するような材料もなく、景気は底ばいが続いている。

□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・景気はまだまだ悪いままである。全ての都府県で緊急事態宣言が解除され、東京都の新型コロナウイルス感染者数が大幅に減少しない限り、状況は変わらない。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ数か月、同じような動きが続いており、景気が回復するような雰囲気がない。来客数も、売上も増加傾向がみられず、販売商材もファンデーションや口紅などの基礎化粧品の上売が厳しい状況にある。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・天候不順に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、旅客輸送量の減少が続いている。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客との話のなかで、どのような場合であっても景気が良くないという言葉が聞こえてくる。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・例年と同様に2月は動きが悪い。ただ、新型コロナウイルス禍のなかでは善戦している方かもしれない。
▲	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・ドラッグストア業界では、1年前は新型コロナウイルスの影響が間違いなくプラスとなっていたこともあり、本格的な景気の落ち込みが1年遅れて生じている。
▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・前年と比べて販売量が減少している。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で移動などが制限されているため、来客数が減少している。
▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・関東圏や関西圏などの緊急事態宣言が長引いていること、Go To Travelキャンペーンが一時停止となっていることの影響が大きく、新規の旅行申込みがほぼみられない。特に企業などの団体旅行についてはこちらから営業できる状況にもないことから皆無である。ギフト券類の販売や旅行以外のソリューション営業への切替えを進めているが、なかなか販売まで至らない。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・当地における新型コロナウイルス感染者数が減少傾向にあることから、繁華街への人出が若干増加しており、タクシー利用も上向きとなっているが、これまでの感染動向から景気が順調に上向くとは考えられない。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・前月末から少しずつ電話での予約がみられるようになっており、徐々にではあるが、受注件数も増えてきた。ただ、月全体での景気はやや悪い。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・例年であれば、運送収入が上向き始める時期だが、今年は一方向に上向き兆しがみられない。
▲	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍のなか、景気は3か月前とほぼ変わっておらず、むしろ若干悪くなっている。季節的な影響もあるが、新型コロナウイルスがとにかく早く終息しない限り、景気はこのまま変わらない。
▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、多くの客がモデルルームに来場できない状況が続いている。リモート営業は可能だが、分譲マンションは大きな買物であるため、リモート営業だけで客が購入を決めることに難しい面がある。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・一部地区における飲食店などへの営業時間の短縮要請が、2月半ばから市内全域にまで拡大されたことから、他業種も含めて壊滅的な打撃を受けている。新型コロナウイルス感染者数が落ち着いてきたことから、2月末日で解除されることになったが、中心市街地に根付いた悪いイメージが簡単に払拭されることはないため、影響は長期にわたると見込まれる。こうした影響の大きな地域を対象とした直接的な救済策を打たない限り、産業の早期回復は見込めない。積極的な政策立案を期待している。

	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響による全国的な観光客の減少傾向に歯止めが掛からない。緊急事態宣言の影響もあり、観光を控える傾向が以前よりも強まっている。また、感染状況が落ち着いたとしても、すぐには観光や遊びに出掛けるという心理にはならない。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で人の移動がなくなっているため、観光に特化している地域では観光客による需要がほとんどみられない状況になっている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・現在は基本的に営業していないが、街の人出をみる限り、利用客が減少していることがうかがえる。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンが停止されていることも大きな要因だが、新型コロナウイルスに関する誤った情報も多く流布されていることで社会不安が形成されている面がある。その結果、多くの国民の行動が抑制されており、感染抑制と社会経済活動のバランスが著しく崩れている。特に飲食、観光にそのしわ寄せが集中して現れており、来客数の激減につながっている。
	×	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が延長されたことで、Go To Travelキャンペーンの再開も不透明な状態となり、道内宿泊の問合せすらない日が続いている。当地では一時閉店する旅行代理店がみられたり、完全閉店した旅行会社さえみられる。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・2月も11～12月と同様にタクシーの売上が前年比マイナス50%であった。前年2月28日に北海道独自の緊急事態宣言が発出されてから1年が過ぎるが、新型コロナウイルス禍での自粛が続くほか、関東圏などでの緊急事態宣言も続いていることから、夜の人出もみられず、タクシーの売上は一向に回復してこない。
	×	観光名所（従業員）	来客数の動き	・3か月前はGo To Travelキャンペーンの恩恵もあって、例年の平均的な来客数の70%ほどの利用があったが、2月の来客数は約7%と激減している。
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・前年と比べると、客が新型コロナウイルスに慣れてきている面もみられるが、外出については引き続き自粛している。
企業 動向 関連	◎	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者の減少に伴い、人の動きが出てきている。自粛ムードは続いているものの、春に向かい世の中が少し明るくなっている。
(北海道)	○	—	—	—
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上が落ち込んでいる状態が続いている。前年と比べると1割減、一昨年と比べると2割減となっている。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍のなか、民間設備投資について業種による濃淡が鮮明になってきている。足元の受注競争は激しく、次年度工事の受注が積み上がってこない状況にある。
	□	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、営業活動の量と幅は限られているものの、政府による新型コロナウイルス対策の施策効果などにより、周囲の景況感は3か月前と同様の水準を維持している。
	□	司法書士	取引先の様子	・冬期間であることに加えて、新型コロナウイルスの影響もあり、建築業ではなかなか受注が進まない状況にある。不動産業も不振な取引先が多くみられるなど、以前と比べて変化は余りみられない。不動産の売買が決まった場合も、地域間の移動の制限や自粛などの影響で契約が先延ばしになるケースがみられ、売上につながるまで通常より時間を要している。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・景気は横ばいでの推移となっている。業種による差が大きいことから、今後も厳しい状況が続く。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・建設関連業界は基本的に官高民低の状況にある。都市部では民需も比較的旺盛である。

	□	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き売上が前年並みで推移している。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・以前と比べると、物の動きが鈍くなっている。大きな変化ではないが、前月と比べて状況は余り好転していない。
	▲	建設業（従業員）	取引先の様子	・公共工事、民間建築工事共に年度末しゅん工の時期を迎えているなか、下請業者の手持ち仕事量が少なくなっている。なかには廃業を検討している業者もみられる。
	▲	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例年、荷動きの鈍くなる時期であり、年末に倉庫間移送などを先取りして行ったこともあり、その傾向がますます強まっている。特に本州送りの砂糖、でん粉、建材の輸送量が減少している。飲料や紙パルプ関連も相変わらず低調であり、少なくとも春までは今の状況が続く。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・道内では事業所数、従業者数、GDPにおいて、宿泊業、飲食業の占める比率が高いが、Go To Travelキャンペーンの一時停止により、宿泊業、飲食業の業況が悪化している。このため、道内景気はGo To Travelキャンペーンにより景気が押し上げられていた3か月前と比べてやや悪くなっている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う各種規制の影響により、経済活動が大きく制約された状態が継続しているため、不動産取引などの金額の大きい取引はストップしたままである。景気は悪化している。
	▲	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・観光関連以外の業種にも新型コロナウイルスの影響がじわじわと出始めており、設備投資意欲が減少傾向にある。
	×	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・2月の販売量は前年比マイナス35%であったが、3か月前の11月の販売量は前年比マイナス25%だったため、景気は悪くなっている。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数の減少とワクチン接種に関する報道の影響で、若干ではあるが、求人情数が増加傾向にある。求人に対する反響も良い状態が続いており、介護や建設などの人手不足業界の求人が堅調である。
	○	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・1月の有効求人倍率は1.28倍と前年を0.06ポイント上回った。新規求人数、就職件数が前年を上回っていることから、景気はやや良くなっている。
	□	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・企業からの求人は徐々に増えてきているが、業績が前年を大きく下回っている企業が多い。業績回復を目指して営業系の求人が多くみられるが、即戦力の人材を求める求人がほとんどであり、未経験可の求人が減少している。求職者とのマッチングが難しくなっている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数に下げ止まり感がみられる。ただ、衣料品販売や居酒屋を始めとした飲食店への客足をみる限り、前年末よりも厳しい状況にあることがうかがえる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ここ2～3か月、求人広告の申込件数、掲載件数が、新型コロナウイルス発生以前の7割程度で推移している。
	□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・ここ最近、余り良くない状況が続いている。離職者の状況をもて、事業主都合の離職者が多くみられる。また、これまで耐えてきた事業主がそろそろ危ないのではないかという話もちらほらと聞こえてきており、景気はまだまだ厳しい状況が続いている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における1月の有効求人倍率は0.84倍となっている。前月との比較では0.03ポイント下回ったが、3か月前とは同率であった。

□	学校 [大学] (就職担当)	採用者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年新卒者の就職内定率はここ10年間での最低水準となっている。新型コロナウイルス禍で企業の採用活動が遅れたことに加えて、Web対応が多かったことで、企業も学生も混乱した1年であった。採用人数を絞り込む企業が多くみられたが、必要数を採り切れなかった企業が目立った。一方、未内定の学生に残された時間はあと1か月であり、大学側の支援にも限界が生じている。
▲	求人情報誌製作 会社 (編集者)	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・国による緊急事態宣言や北海道による集中対策期間などによって、旅行や外食などの消費活動の落ち込みが広まっており、企業や店の体力をじわじわと削っている。
×	—	—	—